

6. あなたは K 氏の受け持ち看護師である。次の文章を読み、問いに答えなさい。(計 8 点)

K 氏 (70 歳、男性) は、胃がんのため全身麻酔下で幽門側胃切除術を受けた。本日は術後 1 日目にあたる。術直後から痛みと口渇の訴えが強い。痛みに対しては、術中に挿入された硬膜外カテーテルより、PCA 装置によって鎮痛剤が 4ml/時で持続投与されている。PCA 装置に付属するボタンを押すことで、患者自身が 3ml/回ずつ鎮痛剤を追加投与できる設定になっている。また、K 氏は、胃管、末梢静脈カテーテル (左前腕)、吻合部ドレーン、膀胱留置カテーテルが留置され、弾性ストッキングを装着し、間欠的空気圧迫装置を使用している。現在、意識は清明で、バイタルサインは概ね安定している。医師の診察の後、酸素投与は終了し、絶飲食は継続している。

1) 苦痛緩和について述べた 5 つの文を読み、正しいと思われるものをすべて選びなさい。
(2 点)

- ① 痛みの閾値を下げるため、K 氏の不安や他の不快症状の緩和に努めた。また、少しでも良質な休息や睡眠が取れるように配慮した。
- ② 眉間にしわを寄せて創部を押さえながら側臥位で過ごす K 氏の姿が見られた。血圧が上昇し、脈拍数の増加なども見られたため、鎮痛剤の使用を勧めた。
- ③ PCA により硬膜外カテーテルから鎮痛剤を投与すると痛みは緩和されるが、嘔気の訴えが増強する傾向がみられた。そこで、他の鎮痛剤の使用を検討した。
- ④ K 氏の口渇の訴えに対して含漱で対応していたが、口渇が軽減されないため、看護師が見守りながら少量の飲水を促した。
- ⑤ 体温が徐々に上昇し、38.0℃に達した。K 氏の希望を踏まえて、医師から処方されている解熱剤は使用せずに冷罨法で対応した。

2) K 氏の嘔気が増強し、嘔吐したと他の看護師から報告を受けた。受け持ち看護師として、具体的な看護援助について述べよ。(2 点)

3) K 氏の疼痛が軽減したため、これから離床を進める。①離床に際して留意すべき点を具体的に述べよ。また、②離床によって期待される効果について具体的に述べよ。
(2 点×2=4 点)

次頁あり